

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和4年度高松市自殺対策推進会議
開催日時	令和4年11月14日(月) 10時00分～11時30分
開催場所	高松市保健センター5階研修室
議 題	(1) 高松市自殺対策計画の進捗状況について (2) 各団体の自殺対策に関する取組について (3) 今後の自殺対策の取組みへの意見について (4) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	鈴江会長・佐藤委員・井上委員・芳野委員・杉山委員・島津委員（代理：花岡氏）・北原委員・水口委員（代理：田中氏）・黒川委員・石川委員・鈴木委員・泰田委員・土手委員・藤川委員・藤澤委員・中島委員・秋山委員・山地委員（代理：梅谷氏）・日笠委員
傍 聴 者	0人
担当課及び連絡先	高松市健康づくり推進課 839-2363

会議の経過及び結果

次の通り、会議を開催した。

1 開会

2 議題の協議

(1) 高松市自殺対策計画の進捗状況等について

事務局から説明を行い、ご意見をいただいた。

(2) 各団体の自殺対策に関する取組について

事務局及び各団体から説明を行い、委員よりご意見をいただいた。

(3) 今後の自殺対策の取組みへの意見について

団体から説明を行い、委員より意見をいただいた。

(4) その他

事務局から次期計画策定について説明し、今後の協力も依頼した。

3 閉会

会議の経過及び結果

【質疑応答・意見】

議題（１）について

質問・意見なし

議題（２）について

委員）コロナ対応の関係で、地域活動をしてきている方々との協議が不十分だったが、取組として子供の自殺予防に向けて県内精神科医と連携し、研修会を開催し短編動画を作成した。今後は、学校と連携し病院への受診方法等について共有したい。

委員）コロナの影響で、こども女性相談課での来所相談の機会減少を感じる。SOSを出せない方を救う方法が課題と感じている。

委員）地域包括支援センターでは、コロナの影響で対象高齢者の身体的悪化がみられており、精神的にも影響していると思われる。関係機関と連携して対応していきたい。

委員）消防現場では、対象者を関係機関へ引き継ぐのは難しいため、このような機会を通じて相談、引継ぎがスムーズにできればと考える。

委員）1回あたりの相談対応時間について伺いたい。

委員）いのちの電話では、相談者の方から切ることが原則であるため相談時間は決めていない。

委員）マインドファーストでは、精神医療についている方の電話相談を行っており、時間に関しては電話相談担当者に任せているが、最大30分としている。頻回の電話相談がある方で対応に困る場合は、電話相談担当者がコンサルテーションを受けられる体制を取っている。

委員）県精神保健福祉センターでは以前、電話が繋がりにくいとの苦情があり、電話回線を2回線から3回線に増やした。今年度から事前に30分が目安であることを相談者に伝えている。ただし、相談内容によっては延長するなど柔軟に対応している。また、頻回に電話がある方へは、同様の内容であれば1日1回30分としている。以上のような対応により、徐々につながりやすくなっている。

委員）民生委員として、電話相談を3件受けたが、一番長い方で3時間対応した。内容は「今から防波堤に行って飛び込んで死ぬ。」と訴え慌てたが、ちょうど干潮だったので、一旦家に帰ることで落ち着いた。残りの2件は、約2時間対応した。

議題（３）について

会長）事前に御意見のあった団体から、追加の説明があればお願いしたい。

委員）グリーンワークとしては、この会に市長の出席をお願いしたい。ある町では、過去にゲートキーパー養成研修を実施した際、町長の挨拶の中で「町全体のこころの健康のためにゲートキーパーの人材育成に力を入れている。」と、熱心な姿勢がみられた。行政には、自殺対策を大きな視点でとらえ、全体をコーディネートする役割として、民間団体の役割を知って欲しい。また、世の中は効率化を求められているが、自殺対策は効率化とは対極の支援・仕事であり、行政がすべて担うのではなく、民間の関係機関等が協力し合うとともに、地域で住民同士で支え合える社会育成のために、ゲートキーパーを普及させることが不可欠。このようなつながりや意見交換等、地域社会の取組み状況について知っておいて欲しい。

会議の経過及び結果

委員) 10月10日の世界メンタルヘルスデーに合わせて、高松シンボルタワーのライトアップはできないか。ただ、シンボルのシルバーカラーが既存にないらしく初期投資が必要と聞いている。また、消防防災課への質問として、「自殺企図の目的で精神関係の処方薬を大量服用し、で救急搬送される方が少なくないと聞いている。2008年の国立精神神経研究センターの報告でも、心療内科につくことが自殺を高めるといったレポートがあり、国会でも一時問題となったが、消防の現場でそのような実態を把握しているか。」を聞きたい。

子ども若者居場所づくりについて、他市にはなるが民家を借りて運営している場所がある。本市でも空き家の活用の一環として場所を借りられる情報があれば、教えていただきたい。

最後に、コロナ禍でフリーランスの経済的問題が大きくなっているが、フリーランスの方が安心して働けるような環境整備について、行政で準備していることや意見等があれば聞きたい。

事務局) 高松市自殺対策計画の見直しについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が長期化する中で、国は本年10月に、新たな自殺総合対策大綱を策定された。新たな「自殺総合対策大綱」の概要では、自殺の現状と自殺総合対策における基本認識として、新型コロナウイルス感染拡大の影響を踏まえた対策の推進が新たに追加された。また、内容としては、自殺への影響について情報収集及び分析、ICT（インターネット・SNS等）活用を推進、女性、無業者、非正規雇用労働者、ひとり親、フリーランス、児童生徒への影響も踏まえた対策が重点施策に表現されている。本市においては、平成31年（2019年）3月策定の「高松市自殺対策計画」をもとに対策を推進している。今計画の終期が令和5年度末となっているので、国の新大綱や、令和5年度からの「第2期いのち支える香川県自殺対策計画」また、地域の実情を勘案したうえで、「香川県自殺対策推進センター」の指導を仰ぎながら新計画の策定に取り組む予定である。

事務局) 昨年の本会議において検討案件でありました、本市健康福祉局内に自殺対策本部機能を設けることについて、令和2年度自殺対策推進状況調査の結果、中核市62市において、自殺対策担当部署として、56市（90%）が保健所・健康づくり部門であり、残り8市が障害・政策・健康総務部門となっている。また、庁内横断的な会議体を設置の中核市52市の中で、首長が議長としての役割を担う市は12市ある。本市としては、この自殺対策推進会議を中心に、各機関が連携・共同して自殺対策を推進していく体制を当初から執っていることから、今後も本市にとって当会議を重要な位置づけとしてとらえ、自殺対策を一緒に推進していきたいと考えている。また、本日いただいた御意見等については、今後の課題としたい。

委員) また、メンタルヘルス対策を重要な政策課題と捉えることについて、メンタルヘルスの重要性は認識しており、高松市自殺対策計画の重点施策にある「こころの健康を支援する環境整備とこころの健康づくりを推進する」を始め、各ライフステージにおける重点的な自殺対策の中で、行政及び関係機関、民間団体が一丸となって取り組むものとして、本市の重要な課題の一つとして、今後も取り組んでいく。来年度の高松市自殺対策計画の改定時においても、本日いただいた様々な御意見を盛り込んで検討していきたい。

会議の経過及び結果

議題（４）について

事務局）第2期高松市自殺対策推進計画策定について、事務局から改めて御相談させていただく。